



〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行

岩手県立二戸病院 広報委員会

「地域と共に歩む病院を目指して」

院長 鈴木 彰



今年も徐々に暮れようとしています。皆さんにとって今年はどんな年だったでしょうか。

病院の状況は、医師不足は解消されるどころか、さらに1人減となり、それに加えて、コメディカル（看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、リハビリのスタッフ、栄養士等々）の人数も足りない状態です。そしてそのような状況を住民の皆さんにきちんと説明できておらず、十分理解が得られている状況ではありません。病院から情報を発信する場は非常に少なく、これまでも市民公開講座等の場で行っていましたが、住民の方の参加も少ないため、情報を十分に発信できているとはとても言えませんでした。

そこで、まず病院そのものの理解を深め、さらにさまざまな問題となる状況を理解して頂き、有益な知識を知ってもらおうと病院公開を行いました。それが8月31日に行われた“二戸病院祭”です。

普段二戸病院を利用して頂いている方々も各部門のスタッフと直接触れ合う事が少なく、何を行っているかあまり知られていない、という事で、直接触れ合い、理解して頂く場を設けようと思いました。開催にあたっては院内の職員だけではなく、消防署の救急救命士さんや二戸高等看護学院の学生さんなどのご協力を頂きました。

会場は、正面玄関から受付、薬局前を通り、リハビリに至るホスピタルストリート。そして中待合に伸びる待合室を使いました。外にはテントを張り、飲食店さんの出す屋台や医局の先生方が出すゲームコーナーを設け、その前には救急車・消

防車・D-MAT車を展示、さらに、地下の会議室では講演を行い、売店さんや食堂さんにもご協力を頂きました。

各部署の業務紹介や、病院祭ならではの有益な話やイベントが催され、救急救命士さんによるAEDの使い方講習なども行われました。二戸高等看護学院の学生さんのハンドマッサージは行列ができるほどの盛況ぶりでした。

地下では会議室で3題の講演が行われたほか、病院の免震構造の見学も行われました。また、売店では特売・くじ引き・じゃんけん大会が行われ、食堂ではヘルシー食材のバイキングが振る舞われるなど、たくさんの人を集めていました。

最後には、ホスピタルストリートで職員と看護学生さんによるふれあいミニコンサートが行われ、初めての開催となる病院祭が幕を閉じました。

来場者は家族連れも多く、その数は350人を超え、予想を上回る人数となりました。今回この企画を通じ、多少なりとも病院の事を伝える事が出来たかな、と思っておりますが、まだまだ皆様に伝えたい事があります。

これからも情報を発信しながら皆様と共に考え、進んで参りたいと思っております。ご支援の程よろしくお願い致します。

<<第16号 目次>>

- 1ページ 「地域共に歩む病院を目指して」 院長 鈴木彰
- 2ページ 「医療安全管理室です」 医療安全管理室
- 3ページ 「臨床検査科冬景色」 臨床検査科
- 4ページ 「薬の豆知識」 薬剤科
- 「リハビリテーション科紹介」 リハビリテーション科
- 5,6ページ 「病院行事の記録」

～ 医療安全管理室です ～

医療安全管理室にはいろいろな情報が全国から入ります。
今回は病院で転んでけがをした事例を紹介します。

(事例1)

Aさんが診察してもらうため来院しました。
病院の玄関に入り、自動ドアのところで転びました。
動きが少し悪かったため、自動ドアが閉まり、胸のところにドアがぶつかってしまいました。その時はビックリしましたが、普通に診察をして帰りました。

翌日になり、胸が痛くて息をするにも痛みが走ります。家族に付き添われ診てもらったら肋骨が骨折していました。

自動ドアは、動きを感知して閉まります。動いているときは最後まで閉まりませんが、この事例では倒れてしばらく動きがなかったため、最後まで閉まってしまい胸にドアがあたったものです。

自動ドアは人がいれば閉まらないものではないことを覚えておきましょう。



(事例2)

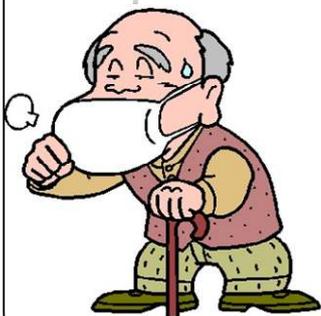


外来に来て知り合いの方と一緒にになりました。
話しこんでいたら看護師に呼ばれたため急いで受付に行こうとし、思わず、転んでしまい、顔面をうってしまいました。
年とともに手がなかなか出なくなり、顔から転ぶことがあります。
ゆっくり、しっかり行動することを心がけましょう。

感染防止のお願い

病院では、他の患者さんに病気が移らないように細心の注意をはらっています。特に、手、くしゃみ、セキから病気が移る（感染）ことが多いのです。病院は患者さんやご家族の方・面会の方など、多くの方が集まる場所です。病院にいらした方、みなさんに玄関での**手洗い（擦式手指消毒）**、**マスクの着用**をお願いしています。

食中毒や風疹・マイコプラズマ、インフルエンザなど多くの感染症がありますが、特に11月頃からは、インフルエンザが流行してきます。学級閉鎖や学校閉鎖はよく聞きますが、病院でもインフルエンザが流行しますと、面会制限や面会禁止をすることがあります。入院中の体が弱っている患者さんに移さないためです。



みなさんの
ご協力を
よろしく
お願いします。



臨床検査室 冬景色

臨床検査科

冬の到来とともに当院臨床検査室のスタッフの間ではこのような会話が聞こえてきます。
『そろそろ来るよね』、『いよいよやって来るね』、『寒くなるといっきに来るかもね』、『今年はどれくらい来るのかな』・・・などなど・・・

さて一体何が来るのでしょうか？

“雪？” “クリスマス？” “サンタクロース？” “お正月？”

いえいえ この季節になるとやって来るのは・・・

『**インフルエンザ迅速検査**』の大量の依頼です。

近年の迅速検査キットの進歩により、綿棒でちょっと患部を拭うだけで精度のよい（A型かB型かわかる）結果を、短時間で提供出来るようになりました。

この検査はいわゆる『〇〇〇〇分析装置』のような、マシーンを必要としません。

臨床検査技師のしなやかな手技と、写真にあるような種々のタイマーの音を聞き分ける耳と、判定で酷使する目が必要なのです。よっていっきに大量処理できず、1人分ずつの地道な検査が続きます。我々スタッフにとっては超多忙な季節がやって来るのです。

**正確、迅速な結果を提供すべく、
臨床検査技師は24時間走り続けています。**



図1 タイマーいろいろ

迅速検査って何？

出番の多いのは

インフルエンザ 迅速診断キット ですがその他にも **アデノウイルス**、**RSウイルス**、**A群溶血連鎖球菌**、**マイコプラズマ抗体**、**ロタウイルス** などがあります。

近年、「**イムノクロマト法**」の技術の進歩が、様々な感染症の迅速診断キットの製品化に応用されています。有効に活用するには

適切な時期に適切な検体を採取することです。

感染の症状があるのに、インフルエンザ迅速検査の結果が『**陰性**』の場合があります。これはキットの検査特異度（ウイルスに対して反応する選択性）は高いが、感度は検査時期によって違いがある為です。細胞内である程度のウイルス量に達しないと『**陰性**』と判定され、十分な量（キットの検出できる範囲の量）のウイルスがあれば『**陽性**』の判定になります。要するに抗原量が最少検出感度（反応する度合）以下であればたとえ感染していても『**陰性**』の結果になります。

このような、“**最少検出感度**・**最大検出感度**”があることを理解し利用することにより、迅速診断キットは最大の威力を発揮するのです。



図2 種々の迅速診断キット

薬の豆知識



薬 剤 科

第 6 回 「抗インフルエンザウイルス薬は 5 種類」

今回は二戸病院で使用しているインフルエンザ薬を紹介いたします。

処方される薬品は患者さんの症状により使い分けられます。

| 薬品名 | | 用法用量 |
|--------|---|-----------------------------|
| シンメトレル |  | のみ薬 1日2錠(朝夕1錠) ×5日間 |
| タミフル |  | のみ薬 1日2コ(朝夕1コ) ×5日間 |
| リレンザ |  | 吸入剤 1日4吸入 (朝夕2吸入)×5日間 |
| イナビル |  | 吸入剤 1回2本 (10歳未満は1回1本) |
| ラピアクタ |  | 点滴 1回のみ |

○シンメトレルとタミフルには粉薬があります。

○抗インフルエンザウイルス薬は48時間以内の投与が推奨されています。

※ お薬は用法用量を守ってきちんと服用しましょう。



リハビリテーション科紹介

リハビリテーション科

二戸病院は二戸地域の基幹病院であり、当リハビリテーション科においても急性期リハビリテーションを中心に、理学療法士 (PT) 4 名、作業療法士 (OT) 2 名、言語聴覚士 (ST) 1 名の計 7 名で日々奮闘しています。

また、当科は二戸地域の広域支援リハビリテーション病院という顔も併せ持っており、「二戸地域リハビリテーション実施施設等従事者研修会」を年 2 回開催しています。この研修会は二戸地域を支えている、リハビリテーション関係職種の方々や関連施設の方々とともに学びあう機会を設け、互いのスキルアップに繋げていくことを主旨としています。

今年 7 月の第 1 回研修会では、当科の主任理学療法士が「誰でもできる呼吸リハビリテーション (実技編)」をテーマに講義を行い、ケアマネージャーや介護士、訪問看護師など多くの職種の方々に参加していただきました。次回の研修会は来年 3 月 1 日 (土) 開催予定となっております。

今後も更なる地域医療・福祉連携を進めていく一助として、このような研修会等を催していくことにより、より質の高いリハビリテーションサービスの提供を目指していきたく思います。

病院行事の記録



今年行われた病院行事について写真で振り返ってみました。

4月 転入者、新採用者 対面式



今年も多くの新しいスタッフを迎えました。
初対面でかなり“緊張”の様子

7月 セタコンサート



41回目のふれあいコンサートです。
涼しげな歌声が院内に響き渡りました。



8月 ふれあい看護体験、中学生医療現場体験

看護や手術操作を体験してもらいました。
この中から将来の医師、看護師が生まれることを
期待しています。



腹腔鏡手術を体験。
気分はもうスーパーDr?

8月 二戸病院祭

今年、初めて開催した二戸病院祭（病院公開）
雨にも関わらず、多くの方々に来場していただき
ました。



最初はゲー
じゃんけんポン



屋台は行列ができ、縁日コーナーは
子供たちで大盛況でした

(次ページへ続く)



普段見ることのできない地下の免震構造に興味深々



最後は恒例の「コーラス」で締めくくり

9月 二戸まつり 流し踊り

毎年「レベルアップ？」している流し踊りの衣装、今年のテーマは「あまちゃん」でした。来年の衣装にも期待してください！



美女の後ろは美？男子

12月 クリスマスコンサート



42回目となるふれあいコンサート、今回も看護学生、近隣の病院関係者の皆様の協力を得て開催しました。次回も**たくさん**の参加をお待ちしています。